

日本女子体育大学

Dance Letter

Vol.41



3年生パフォーマンス

土井裕美(4年) 坂本研究室

私は1年生の時、先輩方の3年生パフォーマンスを見て、強く憧れを抱いたのを今でも覚えています。コロナ禍でしたが、私たちが時間をかけて作り上げた作品を学内の学生に直接、あるいはオンラインを通して見ていただけたことが幸せでした。

私たち坂本研究室は25人と最も人数が多いですが、各々が様々な経験を経て、モダンダンスの洗練された美しい世界観を表現したいと歩んできました。

今回は「Rayleigh」というテーマで儂い中にも強い美しさがあることを表現しました。それぞれが集まって大きな極光(オーロラ)になるという、大人数ならではの作品になったと思います。人数が多いことで難しいこともありましたが、本番が近づくにつれ表現したい世界観を感じることができるようになり、また、坂本先生のご指導の下、私たちににとって最高の状態で本番を迎えることができました。

昨年度に引き続き多くの制限の下での公演になりましたが、あらゆる面で支えてくださった先生方、助手さん、スタッフの皆さんのおかげで、憧れていた舞台を踏むことができました。次はついに、卒業公演。私たちの集大成が作品として表現できるように、またみんなで歩んでいきたいと思っています。



金子美月(4年) 高野研究室

3年生パフォーマンスで私は、高野研究室作品の全体構成を担当しました。20分の作品を作るのは初めてで、演出の面でも初めての挑戦が多く、これまでの創作活動の中で一番悩みぬいた作品となりました。

今年の高野研究室は9人と全研究室の中で一番人数が少なく、またこれまでの関係性があまりないメンバーが集まりました。そのため最初はお互いに手探りの状態が続きましたが、何度も何度も様々なテーマでインプロヴィゼーションに取り組むうちに、身体感覚を通して信頼関係を築き上げていくことができたように感じています。特に、個人的には創作の過程で表現の難しさや恐ろしさや向き合い、身動きが取れなくなってしまった期間がありました。その状態から抜け出すことができたのは、私が思っていた以上に研究室の仲間が私のことを信じて向き合ってくれたからです。普段は恥ずかしくて言えませんが、8人の仲間、そして私たちのやりたいことを信じてくださった高野先生には本当に本当に感謝しています。

今回の作品は実験的な取り組みが多く、たくさんのお話を学ぶことができました。卒業公演に向けて、また研究室のみんなで作りを上げていくことがとても楽しみです。



江波戸理奈(4年) 松山研究室

毎週、練習場所を確認し合いながら、健康チェックシートの呼びかけをする朝から始まりました。発想力のある人が多く、様々な意見を出し合いながら創り上げた3年生パフォーマンスの作品は、集まった人のジャンルも身長もバラバラな松山研究室の色を鮮明に表現していたのではないのでしょうか。面白くキャッチーで、ぐっと世界観に引き込まれる作品であったと私は思います。夢と現実という狭間を表現しながら2つが混ざり合い、やがてどちらが現実でどちらが夢かわからなくなっていく。ファンタジーのように見えてどこか自分も経験したことあるような作品になっていました。振り付けや演出について色々な案を取り入れていく中、常に軸にあったのは「観客に伝わりやすいように」ということでした。映像と生の舞台を存分に使用し、ワクワクする作品になったと思います。本番を経て考えたことや改善点を洗い出し、さらに良い作品にするために議論したことで卒業公演への期待が増しました。各研究室の作品を直接観る機会もあり、どの作品もとても目を惹かれてのめり込んで観られましたし、やはり実際に目の前で観ることのできる舞台は、とても良い影響を与えられると感じました。



中澤大空(4年) 石川研究室

石川研究室では、大きなテーマややりたいことが最初からメンバー間で一致しており、何でも踊りたいと思えるような最高の作品になったと自分たちで思っています。しかし、振付者の三人はもちろんダンサーもいろいろな悩みにぶつかりました。どうしても入れたい構成がうまくかみ合わずなかなか前に進めない期間がありました。振付者がすごく悩んでいたことは全員理解しており、手助けしたい気持ちはあるものの、自分が口を出してしまっているのだろうかそれぞれが思ってしまう、私たち自身がアドバイスや提案をする場面はなかなかありませんでした。最後の反省会でみんながこのことについて同じ思いを持っていたということが分かり、この反省を4年生では挽回したいと、メンバーの気持ちがより1つになりました。

本番が近づくにつれ、残りの練習時間が短くなっていくことに対して、本番への不安よりもこの作品を踊れる回数があと数えられるくらいしかないことに皆ショックを受けていました。本番前にも多少のトラブルはありましたが、メンバーの誰に聞いても自信をもって最高の作品になったと答えられるものになりました。

3年生パフォーマンスは卒業公演のためにも本当に大切な機会になったと思います。



黒丸紅葉(4年) 岩淵研究室

3年生パフォーマンスで、初めて経験することが多くありました。大人数をまとめること、自分の意見を伝えることなど普段自分から表に立って行動ができるタイプの人間ではないため、自分が指示しないと何も始まらないシチュエーションに戸惑ったり、作品の質を高めていく以前の自分自身の課題が山ほどありました。

今回作品を創るにあたって『相貌失認(そうぼうしつにん)』がモチーフだったのですが、その抽象的なものを形にする上でイメージや動きのニュアンスをダンサーに明確に伝えることが難しく、はじめは作品に対する認識の不一致がありました。自分が持っているイメージに自信が持てなくなり作風の軸がぐらつきそうになる時期もありました。しかし、創作班として動いてくれていた3人が私が余裕がない時に代わりに皆に指示をしてくれるなどサポートをしてくれ、研究室の皆もある程度作品が固まってくると自発的に作品と向き合って取り組んでくれるなど、皆のそれぞれの力があって岩淵研究室の作品が完成したように思います。3年生パフォーマンスを通してまだまだ課題が沢山あることをより自覚できましたし、4年生になった今、全員で残りの学生生活の中でできることに取り組んでいきます。



梅田凜(4年) 渡辺研究室

3年生パフォーマンスに向けて毎日のように練習に励んだ約4ヶ月は、想像していたよりも悩み、一筋縄ではいかないことが多くありました。コロナ禍で制限がかかった練習、作品創りが難航した期間、トシューズが痛くて「もう立てない」と挫折しそうな瞬間…。このもがき、苦しんだ時間は、時に涙を浮かべながらも研究室のメンバーで互いに助け合いました。また、碧先生や助手さんから頂いた言葉や別の研究室の同期からの励ましは、そんな辛い時間の支えになっていました。

そして振付者5人が寝る間も惜しんで考えた振付を22人で形にし、何度も試行錯誤を重ね創り上げた『L'heure bleue』は、私たちの努力の結晶です。

あっという間に迎えた本番当日。多目的ホールで照明を浴びて、22人全員で舞台上に立って感じたあの熱量は今でも鮮明に覚えています。終演後に全員で流した涙は、紛れもなく達成感から流れたものでした。また、本番当日は、共に支え合ってきた他研究室のリーダーや、互いに鼓舞し合い、切磋琢磨してきた同期の存在の大きさを改めて感じました。



先生方、助手さん、スタッフの皆様のサポートのおかげで無事、成功裏に終わった今回の3年生パフォーマンスに改めて感謝いたします。次は、4年間の集大成となる卒業公演に向け、日々精進して参ります。

後藤美咲(3年) 舞台監督

今回3年生パフォーマンスで初めて舞台監督という立場を経験し、スタッフとして3年生の先輩方のサポートをさせていただきました。分からないことばかりでたくさん迷惑をかけてしまったのですが、助手さん、3年生パフォーマンス担当の岩淵先生、3年生の先輩方に助けていただき大きなトラブルなど起きることなく無事終えることができました。裏方の音響・照明などの知識や運営の動きといった、出演者が舞台上に立つ際に見えない部分や出演者側では感じることでできないものなど、舞台監督を経験していなければ学ぶことができなかった沢山のことを得ることができました。スタッフ一人一人も経験者が少ない中、全員で協力してサポートし合いながら行うことができたと感じました。このような機会をいただけてとても嬉しかったです。

来年の3年生パフォーマンスは私たちが出演者となります。今回その貴重なスタッフ経験を最大限に活かし、全ての関わってくださる関係者の方に感謝を忘れず頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました!



卒業公演

桑原希世美(卒業生) 卒業公演

はじめに、卒業公演を迎えるにあたり、先生方や大学関係者の方々、助手さん、スタッフの皆様、オンライン配信をご観劇くださった皆様、そして家族、本当に多くのサポートがあったこと、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

先輩方の姿を卒業公演で観る度に、自分たちが同じ舞台上立つ日が本当に来るのだろうか、実感のないまま気づいたら本番の日を迎えているようでした。「今年こそはお客様に直接観てもらいたい」という願いが叶う目前での無観客公演の決定は、本当に悔しい思いでいっぱいでしたが、そんな瞬間も同じ気持ちをみんなと共有できたことで、私たち2018Bの絆はより強いものになったと思います。「私たちができることは何か。」一人一人がそこに向き合えたことで、何があっても動じず舞台上に挑む気持ちや関係性が生まれたと思います。オンライン配信を観てくださった方々からいただいた感想からも、私たちの想いが伝わっていたことが嬉しく、舞台人としての在り方も学ぶことができました。

最後に、まだまだ1人の大人としては未熟ですが、一生の宝となり、財産となり、自信を持たせてくれた卒業公演、そして4年間の二チジョ生活に心から感謝すると同時に、胸を張って次のステップに進んでいきたいと思えます。これまで私たちを支えてくださった全ての皆様、本当にありがとうございました!



©スタッフ・テス株式会社

正課活動

徳永朝恵(M1) 舞踊学専攻 卒論発表会

大学の4年間を締めくくる卒業公演と並ぶ卒業論文発表会にて、研究室での2年間の研究成果を発表する機会を頂きました。これまででも下級生として卒論発表会を拝聴する機会があり、壇上で堂々と発表される先輩方に憧れを抱き、先輩方の発表に追いつけるようにと、発表者一同準備を進めてまいりました。2年間の研究室活動で学んだことや自分が考えたことを5分という短い時間にまとめることは実際にはとても難しかったものの、自分の研究内容を人に伝えるためにブラッシュアップしていく過程はとても面白いものでもありました。

卒論発表会は自分の所属している研究室以外の学生の発表を聞く機会でもあります。普段研究テーマについて話をしないような友人と互いのテーマについて話したり意見を交換したり、指導教員以外の先生方からご指導を頂くことができたりと、短い時間の中でも多くの学びを得ることが出来ました。そこで発表のために改めて自らの卒業論文を見返すと、考察が浅い部分や実験方法に改善の余地がある等、まだまだ多くの課題があることに気づかされました。卒論発表会は大学生生活の集大成でもあります、それ以上に一つの通過点に過ぎないとも感じました。卒論発表会で得た学びを糧に、これからも勉学に励みたいと思います。



部活動

戸崎里菜(4年) ソングリーディング部

私たちソングリーディング部は、2022年3月24日に行われた「USA School & College Nationals 2022」に出場させていただき、大学編成Danceグランプリ、大学編成Jazz部門第1位、大学編成Pom部門Large第1位、第3位を受賞することができました。

昨年度もコロナ禍は続き、目指していた世界大会へ出場しない決断をしたことや対面での練習が難しい期間もあったことで、やりたいことを見失いそうになる時もありました。それでもチームや踊りに対する想いを貫き、上記の成績をいただけたことは、私たちが目標に向かって踊るために沢山の方が支えてくださったからだと実感しています。

部員の思いを一番に汲んでくださる先生や監督方、私たちが少しでも多く活動ができるようにと尽力してくださる大学関係者の皆様、卒業しても温かい気持ちで向き合ってくださいのOGの方々、何があっても味方でいてくれる家族など、いつもそばにいてくださる方々に、私たちの踊っている姿で感謝を伝えたいという思いが私たちの踊りの核となり、踊る意味になりました。

昨年度の活動で、どんなに苦しくても周りの人が手を差し伸べてくれる温かい環境にいること、誰かのために踊ることの楽しさ、想いを込めた作品を直接見ていただける喜びを改めて実感しました。これからもこのような恵まれた環境を当たり前と思わず、毎日を大切に過ごしていきたいです。



三輪麗水(4年) ダンス・プロデュース研究部

ダンス・プロデュース研究部が毎年開催している「身体×映像」という企画は健美祭で行うのですが、今年は別途開催して、部員たちが映像を背景にしたダンス作品を発表しました。部員は振付しダンシングするだけでなく、映像の撮影・編集を手がけ、さらには照明・衣装に至るまで総合的に演出を行います。オープニング映像ではドローンを使った映像を作成し好評を得ました。

この「身体×映像」には毎年一つのテーマが与えられ、過去には「クラシック音楽で踊る」というテーマで生演奏もありましたが、今回は「思い出の曲を踊る」のテーマの下、教職員の方々から思い出の曲とそのコメントを募り、部員がその中から選曲してダンス作品を創作しました。松澤先生と高野先生による共作も出品され、全12作品には工夫をこらした映像と様々に取り組む姿勢がそこに見られて、このコロナ禍でなかなか作品を披露する機会に恵まれなかった私たちにとっては、とても充実した有意義な時間となりました。

観客は教職員の方々のみ劇場にお招きし、鑑賞希望者にはオンライン配信を実施しました。今回は懐かしの音楽を使用したことで、コンテンポラリーダンスになじみのない方にも終始楽しんで頂けたと自負しております。楽曲提供者以外の教職員の方々にも、ダンプロの活動をご覧いただく貴重な機会となりました。



矢田友実香(4年) モダンダンス部

私達モダンダンス部は、10月19日に第55回創作舞踊発表会を開催しました。

一昨年は、コロナ禍でやむを得ず中止し、昨年も開催できるか本番当日まで不安を抱えながら練習に励みました。1日に可能な練習が3時間という中で、いかに質の高い作品に仕上げられるか、見応えのある発表会にできるか、上級生で話し合い作品を創り始めました。

第一部『ヴィヴァルディ「四季」より』は、皆さんの聴き馴染みのある曲で暖かな春から幻想的な冬まで、四季折々の風景を表現することに挑戦しました。四季ごとのイメージや特徴が出せるようモチーフを考えることには苦戦しましたが、部員全員で作品それぞれについての案を交換しながら、質感と表情にも留意し自分達の納得のいく作品に仕上げました。

本番当日、コロナ禍のため観客は50%に制限させていただきましたが、有観客で照明の中で演技ができ、舞台上で踊ることができる楽しさを改めて感じました。発表会を開催するにあたり熱くご指導いただいた坂本先生、そして携わって下さった全ての皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



土井裕美(4年) 舞踊部

私たち舞踊部は前期同様に、本年度2回目となる撮影会を行いました。今回の撮影会は来年度に繋げるための「経験」を大切にしたいため、コロナ禍ではありましたが感染対策を徹底し、先生方のご協力の下、開催することができました。1月下旬頃、世の中の感染者数の増加により一度は中止という話が出て、どの選択が最善なのかわかりませんでした。信じてくださる先生方、私とは違う視点で見てくれる幹部2人のおかげで無事に撮影会を開催し、部員に映像配信を行うことができました。初めて出展する人、初めて出演する人、初めてスタッフをする人など、多くの人の「経験」を作ることができました。

後期は舞踊学専攻のイベントが多く日々のWSは頻繁には行えませんが、そのほかの活動として健美祭にて映像作品の出展、オープンキャンパスへの作品出展を行いました。

新型コロナウイルスによって制限が多く、やりたいことが思う存分できないことばかりですが、今年度の活動で舞踊部の本来の姿に少しでも近づけることができ嬉しく思います。

来年度も舞踊部らしく活動していきたいと思っております!



新入生の言葉

今村日南(1年) A1クラス

日本女子体育大学に入学し、早2週間が経ちました。

入学してすぐに開かれたダンス学科ミーティングで、上級生の迫力あるパフォーマンスを目の当たりにして、今後への期待と同時に不安も抱きましたが、「ダンスが好き」という共通点を持った特別な仲間に出会い、支え合い、互いに高め合いながら素敵な大学生活を送っています。

大学では自ら選択し行動していかなければならないため、わからないことや不安に思うこともたくさんあります。しかし、そのような時に放っておくのではなく、真面目に集中して取り組めるA1のクラスメイトたちは本当に頼りになります。

このような良い環境で、どれだけ自分自身と向き合えるか、表現者、指導者として発展できるか。日々の積み重ねを大切に、挑戦することを恐れず、大学生活の4年間が価値のあるものになるように努力していきたいと思っております。

ついに私たちのデビューとなるSHOWCASEの練習も始まろうとしています。レベルの高い最高の仲間と憧れの先輩たちと創り上げる舞台がとても楽しみです。みんなで一致団結して、明るく元気に頑張っていきたいと思います!



桂悠華(1年) A2クラス

日本女子体育大学に入学してから約2週間が経ち、本格的に授業がスタートしました。新しい環境に不安を感じながら迎えた入学式が懐かしく感じるほど、今では毎日楽しく充実した日々を過ごしています。

7月にはニチジョ生としての初舞台となるSHOWCASEがあり、A2クラスで舞台に立つ最初で最後の機会となります。多くのジャンルを経験してきた人が多いクラスなので、お互いに刺激をもらい、助け合い、クラスの人々と振付して下さる3年生の先輩方と一緒に素敵な作品を創りあげられるように精一杯頑張ります。

私は高校3年生の進路相談の時、「なぜわざわざ大学に行ってダンスをするのか」と先生に言われたことがあります。その時私は、ダンスを趣味で終わらせたくない、学問としてダンスと向き合いたい、と強く感じました。大学生活をただ踊っているだけの日々で終わらせないように、座学では身体表現の方法、舞踊の歴史、身体の構造など理論的な知識を身につけたいと思います。またそれらの学びを自分の身体に応用し、実技の際に活かせるよう努力します。

卒業式を迎えた4年後の私が自らの学びに誇りを持つことができるよう、感謝を忘れずに精進してまいります。



久保田心優(1年) A3クラス

4月になり、雨の中、私たちは大学初の行事である入学式を迎えました。これからどんな試練が向かってくるのかと不安な気持ちと、どんな楽しい生活が待っているのかと楽しみな気持ちが同時に押し寄せてきました!

そして入学して2週間目、ついに大学で初めてのステージ、夏のSHOWCASEに向けての練習が始まります。

先輩方が作ってくださったナンバーを踊れる喜びを感じると同時に、短期間でそれを完成できるかという不安な気持ちもありますが、先輩方が明るく接して下さるので、とてもワクワクしています。

また1週間のオリエンテーションを終え、着々と授業が始まっています。ダンス学科では個性豊かな先生方による難しく辛く、しかしとても楽しい授業を受けることができ本当に毎日が楽しいです。

二階堂先生が作ってくださった日本女子体育大学での学びを自分のものにし、これからの4年間の大学生活を満喫しながら成長して行きたいと思っております。

最後になりましたが、入学を受け入れてくださった学長先生をはじめダンス学科の先生方、他学科の先生方、先輩方、これからたくさんご迷惑をおかけするとは思いますが、私達らしく邁進していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します!



高田莉愛(1年) B1クラス

日本女子体育大学に入学し、約2週間がたちました。まだ学校内で道に迷ってしまったり、授業も馴染めない部分がありますが、徐々に友人もでき始め大学生活への期待に胸を膨らませております。今年度は新型コロナウイルスもだいぶ落ち着きはじめ、対面の授業が多くなり大変なところもありますが、よりいいものを吸収しようと新入生一同精一杯頑張っております。

私たちB1クラスは、これまで経験したダンスジャンルは様々ですが、とても仲が良く競い合う精神を忘れず切磋琢磨しながら授業に取り組んでいます。またクラスで行う教養演習の授業では、担任の坂本秀子先生を中心に一人ひとりが自身の意見を伝えつつ、他の意見を尊重しながら人間性を高めあっています。そしてまだ練習は始まっていませんが、7月には初めてのクラスでのイベントとなるSHOWCASEが行われます。それぞれが違うジャンル出身である点を活かし、クラス全員で力を合わせて素敵な作品になるように頑張りたいと思います。

これから4年間、今以上に大変なことや楽しいこと、いろいろなことを経験していくと思いますが、そんな時こそ今の気持ちを忘れずに前を向いて充実した学生生活を送りたいと思います。



間春菜(1年) B2クラス

憧れである日本女子体育大学に入学し、まだ見ぬ世界への不安を抱きながらも、共にダンスを愛する仲間に出会えた嬉しさを感じ、早1週間が経ちました。親元を離れ、初めは不安でいっぱいだった寮生活にも慣れ始め、他学科の同級生や先輩方との素敵な出会いもありました。何かあれば頼れる人がそばにいることに感謝しながら、充実した日々を送っています。

B2はお茶目な松澤先生をはじめ、一人一人が個性的であたたかく楽しいクラスです。出身地やニチジョに入学した動機も違えば、クラシックバレエやモダンダンス、ジャズやジャズファンク、ヒップホップ、コンテンポラリー、創作ダンスなど…経験してきたジャンルも幅広く、毎日新たな発見があり魅力に溢れています。

これから入学後の初舞台であるSHOWCASEに向けて、先生や先輩方のご協力のもと、B2全員で一致団結し素敵な作品を創っていきます!!また、この作品制作を通じてクラスの皆のことを知り、絆を深めていけたら嬉しいです。コロナ渦の中、ほぼ全ての授業が対面で行われることに感謝しながら、『つよく、優しく、美しく』、日々、人として、ダンサーとして成長できるよう努力し続けていきます。



村上望歌(1年) B3クラス

初めてオープンキャンパスに参加させていただいたときに、「この学校に行くしかない!!」と感じました。入学してからは、新入生歓迎会や上級生パフォーマンスなどの様々な場面において、日本女子体育大学の先生方や先輩方から刺激を受けることができました。また、大学の雰囲気も良く、安心して新生活をスタートすることができました。

私たちダンス学科・B3のミッフィークラスは、可愛すぎる乙女先生と16人の仲良しクラスです!!個性豊かで明るくて優しいメンバーが揃ったB3は、もう既に仲が深まってきました。これから楽しみです!

そして、早速SHOWCASEの活動も始まりました。先輩方が作ってくださった作品は、経験したことのないジャンルのもので、曲も格好良く複雑な動きが沢山あります。全員で完成させる日が待ち遠しいです。一つ一つの過程を大切にしながら、周りの人から愛されるような作品に仕上げていきたいと思っています。

これからダンスに関わる上で、楽しいことばかりではないかもしれません。うまくいかない場合は、仲間それぞれの得意なジャンルを活かしながら助け合っていきたいと思っています。大好きなダンスを学べるということへの感謝の気持ちを忘れずに、4年間のニチジョ生活を楽しく、内容の濃いものにしていきます!!



古谷美咲(M1) 大学院

学部での4年間を終え、今度は院生として新たなスタートを切りました。今年は大学の舞踊学専攻生から5名、舞踊学専攻助手から1名と進学者が多く、一年生全体では過去最多となる23名の仲間にも恵まれました。

院での授業とはどのようなものなのか、学部生の頃は全く未知でした。いざ始まった講義では、教授の話聞きノートやプリントにメモを取り単語を暗記し…などというものはほとんどなく、その多くは自主的に論文を集め研究をし、持ち寄った材料をもとに発表・ディスカッションを交わすものから、関心のある授業やスポーツイベントにアポイントメントを取って実際に参加するなど、まさに主体性が試されるものばかりです。授業を進めていくのはあくまで自分達院生であり、先生方は我々院生に物事を考える視点やきっかけを与えて下さる存在であるように思います。

本当の意味での勉強とはなんであるか。その意味を問われた入学式当日から数週間、すでに先生方のおっしゃられていた意味を痛感し始めています。それぞれバックボーンの異なる仲間たちと多くの言葉を交わし支え合いながら、2年間という短い時間に精一杯向き合っていく所存です。先生方、院生の皆さん、どうぞよろしくお願いたします!



編集後記

最後までご覧いただきありがとうございます。今年度ダンスレターの編集担当をさせていただきます。3年下田、藤田です。

4月から対面授業が再開し、本来あるべき日常が戻りつつあります。まだまだ感染対策など気が抜けない毎が続きますが、このダンスレターを通して、コロナに負けずに学業に励み様々な活動に挑戦する学生の活躍、そして本学の魅力をお伝えできるよう精一杯務めさせていただきます。よろしく願い致します。

下田あさひ、藤田瑞季

NEWS

— 大学 —

<2022年度オープンキャンパス>

6/12(日)、7/17(日)、8/7(日)、8/21(日)、
9/4(日)、12/4(日)、2023.3/21(火・祝)

<ミニオープンキャンパス>

2022.10/29(土)、30(日)
健美祭(大学祭)中に開催

<日本女子体育大学イベント・入試情報>



日本女子体育大学 ホームページ



日本女子体育大学公式LINE



日本女子体育大学ダンス学科公式Instagram
nichijo_dance



日本女子体育大学ダンス学科公式YouTube
動画でわかるダンス学科

— ダンス学科 —

<高校生のためのダンス・サテライト授業>

2022.7/3(日)、9/11(日)、11/6(日)

@日本女子体育大学 総合体育館多目的ホール
二階堂トクヨ記念体育館2階

<ダンス・ワーク・セミナー>

2022.8/19(金)、20(土)

@日本女子体育大学

<第75回全国中学校・高等学校ダンスコンクール>

2022.11/23(水・祝)

@日本女子体育大学 総合体育館アリーナ(特設会場)

<3年生パフォーマンス>

2022.11/12(土)、13(日)

@日本女子体育大学 総合体育館多目的ホール

<第21回舞踊学専攻卒業公演>

2023.1/26(木)

@府中の森芸術劇場 どりーむホール

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により変更が生じる場合があります。

発行日 2022年6月12日(日)

Japan Women's College of Physical Education

Department of Dance

